

事務事業評価における総括

部 局 名	建設部	記入責任者	橋口 真澄
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>建設部は道路、公園、市営住宅等の定例定型的な維持管理業務が多いため、全体としては、例年どおり順調に推移しております。政策的事業については33事業のうち19事業でS評価、7事業でA評価、6事業でB評価としていることから、成果としては概ね順調と考えております。</p> <p>なお、1事業はZ評価としております。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>達成できなかった事業はありませんが、公園緑地課の「氷室椿庭園建物保存整備事業」につきましては、耐震補強工事の予算が確保できなかったため未実施のZ評価となりました。</p> <p>しかしながら限られた予算の中での重点化を行ったもので、緊急的な修繕等を行っており、今後においても厳しい事業進捗となる見込みです。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>インフラ事業の多くは、特定財源への依存度が高いため、国・県の財政状況によって、道路・公園整備や地籍調査など進捗が大きく抑制される原因となっています。更に昨今では常時の維持管理に加えて、風水害など非常時への対応も増加傾向にあります。</p> <p>また、維持管理業務については、市民ニーズが高いにも関わらず、「茅ヶ崎市財政健全化緊急対策」の取り組みにより財源確保の難しい状況が続くと、市民に安全安心な日常生活を提供するサービスの低下が懸念されます。</p> <p>このような状況の中で、ハード事業が中心である政策・施策目標の達成に向けては、財源・人材の確保が喫緊の課題であります。突如おとずれた世界中に感染拡大したコロナ禍に対応するため、「茅ヶ崎市新型コロナウイルス感染症対策パッケージ」に基づいた事業に取り組むための財源確保により、更なる予算の絞り込みを求められております。まだまだ予断の許されない状況においては、不要不急の視点を捉えた見直しを進めながらも、業務の優先度に応じてしっかりとメリハリを付けて事業費や人員の重点化を図ってまいります。</p>			